

# 幸田町議会 平成19年6月定例議会報告

平成19年6月定例議会は6月6日から25日までの20日間の日程で開催された。  
今議会は、一般質問(6人12議題)に続き、単行議案1件、陳情書1件について慎重審議した結果、  
全ての案件について可決決定し閉会したので下記のように、報告する。

## 主な議案(委員会付託議案と陳情書内容)

項 目	件 名	内 容
報告1,2,3号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告1号・H18年度幸田町一般会計繰越明許費繰越計算書について</li> <li>・報告1号・H18年度幸田町介護保険特別会計繰越明許費繰越計算書について</li> <li>・報告1号・H18年度幸田町幸田駅前土地区画整理事業特別会計繰越明許費繰越計算書について</li> </ul>	<p>翌年度に繰越をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H18年度幸田町一般会計繰越明許費 30,210,000円</li> <li>・H18年度幸田町介護保険特別会計繰越明許費 1,800,000円</li> <li>・H18年度幸田町幸田駅前土地区画整理事業特別会計繰越明許費 15,960,000円</li> </ul>
議案第41号 (文教福祉委員会付託)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幸田町保育所の設置及び管理に関する条例の一部改正について</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.改正の理由 上六栗保育園の廃園に伴い必要があるため。</li> <li>2.改正の概要 上六栗保育園に関する規定を削る。</li> <li>3.施工期日等 公布の日から施工し、改正後の条例は平成19年4月1日から適用する。</li> </ol> <p>廃園後の施設は、子育て支援センター・ファミリーサポートセンター・発育相談事業などの拠点として活用されていくため、今後の運用についてしっかりとチェックしていく必要がある。</p>
陳情第4号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の暮らしを守り、公共サービスの充実、格差の是正、働くルールの確立、平和な世界の実現などを求める陳情書</li> </ul>	<p>提出者・・・愛知県労働組合総連合会、愛知県公務員公共業務労働組合共闘会議、日本自治体労働組合総連合愛知県本部</p> <p>総務委員会付託・・・賛成少数をもって不採択すべきものと決した。</p>
一般質問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6名が12項目について質問。</li> </ul>	<p>均衡のとれた町づくりを</p> <p>防災について</p> <p>道路整備について</p> <p>子育て支援対策について</p> <p>公園の整備、充実について</p> <p>小中学校の教室に扇風機設置を</p> <p>保育の充実</p> <p>新生児訪問の月例拡大</p> <p>町内小学校の児童数格差の是正を</p> <p>幸田駅前の商業活性化対策は</p> <p>個人住民税の減免制度の拡大を</p> <p>子供たちの安心登下校をシルバー人材センターを活用して</p>

# 幸田町のトピックス

## 駅を中心としたまちづくり～新駅構想～

人口が3万6,000人、製造品出荷額が1兆4,000億円(平成17年工業統計調査、県内市町村第6位)を超えるなど都市化への進展が目覚しい幸田町。このように都市化をたどっている背景には、明治41年の幸田停車場開業に始まる駅を中心としたまちづくりがある。

今回、町北部地区に期待されている新駅構想(仮称)相見駅の設置が具体化に向けて一歩踏み出すことになった。鉄道駅の効果と課題など幸田町の駅を中心したまちづくりについて考える。

### (仮称)相見駅設置促進期成同盟会

(仮称)相見駅設置促進期成同盟会は、平成元年に新駅勢圏の中心となる関係8行政区で設立し、町議会への請願書採択を得て、新駅誘致活動を行っている。

## 町の将来都市像・・・3駅プラス1構想

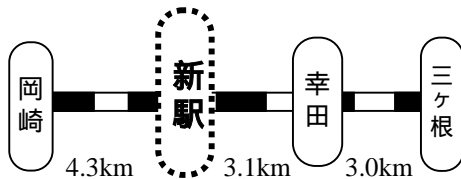
幸田町の総合計画では、町の将来都市像として「3駅プラス1」構想を目指しまちづくりを進めている。

「3駅プラス1」構想とは・・・幸田駅、三ヶ根駅、新駅の周辺市街地とハッピーネスヒル・幸田周辺の交流拠点を加えた4局を都市核として、コンパクトでまとまりのあるまちづくりを誘導する土地利用計画のことで、将来人口5万人構想を展望して、持続可能なまちを目指す幸田町では、4極がそれぞれの特徴を持って連携するまちづくりを進めている。



## 新駅構想

「3駅プラス1」構想のポイントとなる新駅構想は、東海道本線幸田 - 岡崎間(7.4=県内最長)に新駅を誘致しようとするもので、今年3月1日、「新駅等設置の計画協議推進に関する覚書」を幸田町と幸田相見特定土地区画整理組合及び東海旅客鉄道株式会社との3者間で交わし、同月29日には「調査協定」を結んだ。これにより今後は、地質調査や駅舎等の大枠の設計が手がけられていく予定である。



### 新駅の効果

- ・便利な交通、広がる生活圏
- ・まちの活性化
- ・安全・安心なまちづくり
- ・高齢化社会に対応
- ・まちのシンボル

## 課題

- ・請願駅となるため駅設置費用を町で負担しなければならない。(維持運営費用は鉄道事業者)

## まちかどの出来事

### 赤川・広田川に稚魚を放流

アユ・メダカ放流・・・5/8

三谷水産高校の生徒の指導のもと、豊坂小学校の6年生児童が赤川と広田川にメダカ1200匹とアユ1500匹の放流をしました。また、きれいな川にするために放流前に川の掃除と竹炭を川に沈める作業が行われました。



広報「こうた」より

## 新聞記事より

中日新聞・・・H19年6月15日

### 町内中学校から30人オーストラリアへ派遣

8月に豪州派遣中学生抱負語る  
幸田で結団式  
幸田町が夏休みにオーストラリアへ派遣する町内の中学三年生の結団式が町役場であった。三つの中学校から生徒二十人と引率の教員ら四人が選ばれた。結団式では、互いに自己紹介して抱負を語った。北部中の太田寛士君は「二年前に、カンボジアの留学生がわが家に来たのがきっかけで、海外派遣に応募しました。自分の英語で、どれだけコミュニケーションできるか試してみたい」と話した。

派遣団は八月二十日から二十七日までケアンズに滞在し、現地の学校に体験入学するほか、四泊五日のホームステイで現地の中学生と交流を深める。



海外派遣団の参加者たち  
幸田町役場で